

発行所 福井県大野郡 和泉村

(昭和43年5月1日現在)

|      |        |
|------|--------|
| 村の人口 | 6人     |
| 出生   | 2人     |
| 死亡   | 46人    |
| 転入   | 127人   |
| 転出   | 3,205人 |
| 総人口  | 1,690人 |
| 男    | 1,515人 |
| 女    | 1,515人 |
| 世帯数  | 940世帯  |

村の面積 332.26平方km

**今月の目標**

一、参議院議員通常選挙が近づきました。明るく正しい選挙運動に協力しましょう。

一、梅雨の季節です。晴天の日はずつと寝具など日光消毒いたしましょう。

**吾等の念願**

村の問題について 公共的精神をもち 公正であり積極的であること

### 地下資源

## 広域調査を視察

### 和泉村議会議員一行

和泉村議会は、去る五月二日、「中竜地域」として通産省指定による広域地質構造調査の為にボーリングを始め、本村の宝庫である中竜鉱業所の地下資源の現況などについて視察を行った。

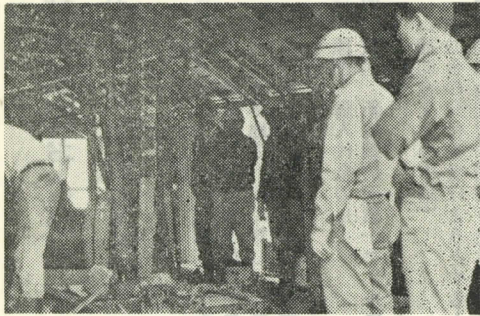
悪条件下

七百五十メートルをボーリング

今回の視察は、武生市を始め和泉村を含む二市四町二村にまたがる地下資源の広域調査が、通産省において決定され、昨年より金属鉱物探査促進事業団を通じ実施されているボーリングの進行状況などについて行なわれた。

地下資源開発については、和泉村再建における三大計画の一つにあげられ、地下に埋蔵されている豊富な資源の開発は、農林業の振興及び観光開発と共に、本村将来の発展に重要であるとされている。

この広域調査は、有望地下資源開発のため、四十一年八月より京都大学の滝本教授を班長とする調査班によって



(佐藤係長よりボーリング状況の説明を聞く一行)

実地調査が行なわれ、ついで昨年度から、日本でも有数の利根ボーリング会社により、上大納地籍の黒谷川上流において、総工費三千万円でボーリング

が進められ、その調査結果によって、さらに鉱石が埋蔵されていると思われる地点を約一キロ間隔に精密なボーリングが行なわれることになっている。

現在のところ、七百五十メートルのボーリングを完了しているが、昨年打込を開始した地質の状況とはことなり湧水、軟弱地盤など悪条件のもとに、工事は難行している。

佐藤地質測量調査係長によれば、約十メートルから二十メートルごとに、

## 穴馬総社(仮称) 建立工事着工さる

水没部落の人達が、祖先より永年崇敬してきた、氏神様も水没移転を余儀なくされたが、氏は県内外に移住散在した現在、祖先墳墓の地に故里の象徴として何か残したいこと、また、それぞれの神社を移転したのでは、維持管理等に困難が伴う等の理由で、各神社の氏子と電源開発KKの間で、各神社を合祀し、総合神社建立の計画が進められていた。が、

このたび、長野ダム周辺の適地、野尻地係栗原に総工費二千万円で着工された。

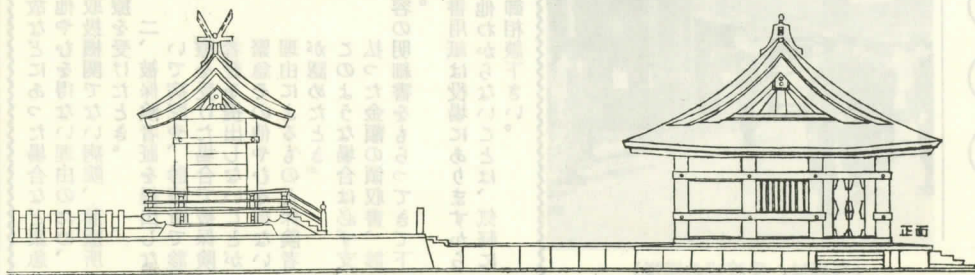
その事業内容を見ると、一ヘクタールの敷地の中に鉄筋コンクリート造り

で本社殿、拜殿、展望台が建立され、記念碑、無縁仏の墓等も同一境内に移され、駐車場まで設けられることになっている。

境内の高台に建設される展望台に上ると西に長野地区、東に大谷地区を一望することができ、信仰と生活の中心であった氏神様の総合神社敷地としては、最適の地である。

工事は、十月完成の予定であるが、完成を待ち侘びているであろう、氏子の人達のためにも、一日も早くしゅん功することを祈りたい。

穴馬総社(仮称) 建立側面図



腸チフス、パラチフス、日本脳炎の予防接種は、六月中

# 役場の窓

## 造林事業費および

### 特殊林産物改良増殖事業に補助金を交付

森林資源を造成し、併せて本村産業の振興を図り、村民生業の維持安定に資するため、村民の行う造林事業で、県の造林補助規程に該当しない、一団地三アール以上、十アール以下の、小規模造林および造林地の下刈事業、なめこ、ひらたけ、しめじ等の種菌を購入し、黄連を新規に栽培して、これ等の特殊林産物を生産する個人、又は団体に対して補助金を交付することになりました。

#### (補助の対象および補助金)

補助金は次の事業を行った、村民に交付します。

一、普通造林、三アール以上十アール以下で、一アール当り、杉または檜三十本以上の新植に対し、一アール当りの補助額は県補助額と同額とする。

- 二、造林地の下刈、一団地五アール以上で、新植した年の翌年から三ヶ年以内の造林地の下刈に対し、一アール当り四十円とし、一アール未満は切り捨て。
- 三、種菌 購入代金の $\frac{1}{2}$
- 四、黄連 新規栽培面積十アールにつき九千円

#### (補助金の交付の申請)

補助金の交付を受けようとするときは、補助金交付申請書を造林事業については、森林組合、特殊林産物については、農業協同組合、又は森林組合を経由し、六月二十日までに村長に提出して下さい。

なお、詳細については、村役場の産業観光課へお問合せ下さい。

### 給食運搬車「しらかば号」を購入

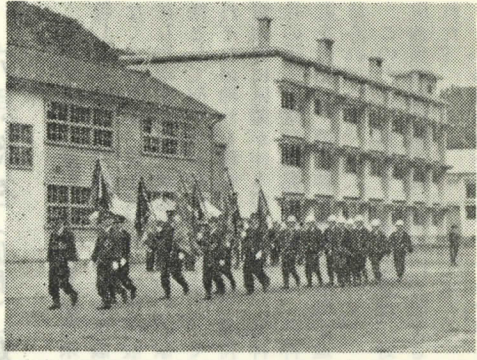
和泉村教育委員会は、昨年十一月末に完成された学校給食センターにもない、このほど給食運搬車「しらかば号」を購入した。

其の運搬能力は一度に三百四十人分の給食を運搬可能である。又全ステールボデーで完全密閉であるから衛生面でも完全である。近代設備のセンターと共に、次代をにう児童の体力づくりに大きな成果をあげてくれることだろう。又遠くからでもよくわかるボデーカラーであるため子供達に大変な人気者となっている。



(写真は、しらかば号)

あなたの献血で尊い命が救われます



(写真は、分列行進の様)

### 朝日商店街に出火!!

#### 消防出初式

恒例の和泉村消防出初式は、四月三十日、県防災課長ら来賓多数列席のもとに小雨ふる朝日中学校グラウンドで団員百余名が参加して行なわれた。

式は午前八時三十分開会され、村長及び来賓の監閲や、今年度から新たに消防機動力に加わった可搬動力ポンプ積載車三台を含む機械器具の点検が行なわれた。このあと昨年度、可搬の部において北陸三県消防操法大会出場第四分団及び地区大会出場の第五分団による自動車ポンプ模範操法について、模擬火災にうつり朝日駅周辺の家屋密集商店街に出火、強風下延焼という想定で一せいに火災現場に急行、村民の生命、身体及び財産を火災から保護する任務と日頃の鍛練による消防精神を発揮した消防火活動を実施した。

このあと、角野橋下流における放水試験をはじめ分列行進や、前団長の表彰と特別功労章など団員表彰があった。

**消防力強化に一役**

ポンプ積載車(三台)を購入

村は、このほど可搬動力ポンプ積載車三台を購入し、四月二十六日消防団への受渡しがなされた。この車輛は第一(後野地区)第三(下山)第四(大納)の各分団に配置された。

これは、各地で見られる化学燃料普及によって、年々増加しつつある火災に備え、迅速かつ機動性を有する消防力の要求からなされたもので、消防車二台と共に防火あるいは、初期消火に今後の活躍が期待される。



(写真は、受渡式の模様)

「問」被保険者証で診療をしてもらえなかった場合、あるいは被保険証を忘れて、自費で診療を受けた場合どのような手続をすれば療養費の支給を受けられますか。

「答」診療を受けた病院、診療所などの医療機関へ支払った金額の領収書、その診療内容のわかる明細書を添えて役場(国民健康保険係)へ、申請書を提出していただきますと療養費の七割が支給されます。

国民健康保険において療養費の支給を受けることができるのは、次に該当する場合だけです。

一、療養取扱機関がない地域で、病気がなった場合、または私達が交



通事故などにあった場合など緊急その他やむを得ない理由のため、療養取扱機関でない病院、診療所で診療を受けたとき。

二、被保険者証を提出しないので病院や、診療所で診療を受けた場合で被保険者証を提出しないことが緊急その他やむを得ない理由によるものと保険者が認めたとき。

払った金額の領収書、診療内容の明細書をもらって下さい。

申請書用紙は役場にありますがそれ他わからないことは、気軽に係に御相談下さい。

### こだま

なんだかんだといっているうちに、とうとうダムに水がたまってしまった。

あの思い出の道も、なつかしいふるさと今ももうダムの底に眠ってしまった。そして今当村は哀愁と期待の歴史



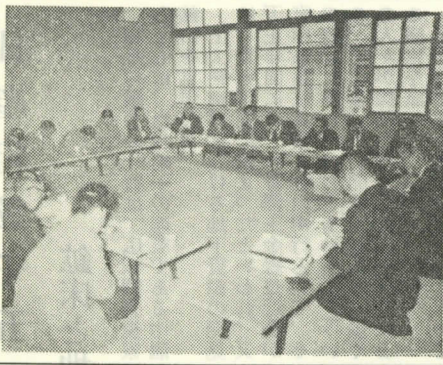
# 旗りレー走者も決まる

## 福井国体和泉村民運動推進協議会開く

4月24日第23回福井国体和泉村民運動推進協議会が開かれ、県民運動に呼応して村民運動の大綱を定めました。

推進員には、各部落嘱託員、社会教育委員、小、中学校長、体協役員、青年団、婦人会、役場の各課長など五十名の方に委嘱し、基本目標別に役場の各課がそれぞれ分担して実践運動の展開を図ることになりました。本村は国体の準会場地であり、村の基本政策の一つ、観光開発の一端として、郷土事情の普及や、花いっぱい運動など福井国体を機に大いに推進したいと思えます。

国体旗りレーについても、既報のとおり長野ダムから下山小学校まで六区間のリレー隊も、中学生八十五名、青年十八名、体協二名、小、中学校先生六名、一般十五名計二二六名が決まり、さらに引継地点の係員には、村体協役員と、婦人会役員がそれぞれ七名



(写真は、推進員協議会の一コマ)

当ることも決定しました。六月下旬には、本番どおりのリハールも行なわれる事になっており、上旬には練習会を開くことになりました。本番は9月26日午前10時から正午までとなっております。

### 一人一鉢運動を

花いっぱい運動に協力しましょう。福井国体和泉村民運動の一つ、花いっぱい運動として、一人一鉢の花つくりをしましょう。大人も子供も、容器は竹筒でも、古い洗面器でも結構です。

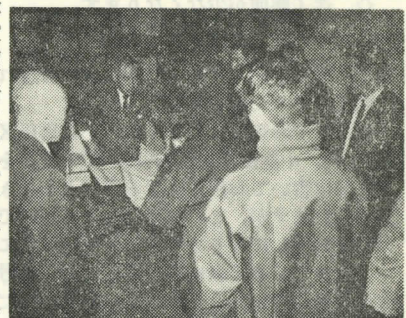
毎日眺める庭先を花でかざりたいと思えます。できれば、一世帯一坪の花壇つくりをいたしましょう。

### 村道、林道の付替完了

一昨年の六月、水没による村、林道の付替は荷暮線(村道)外5本、多母谷線(林道)外4本計十一路線は総工費一億三千万円。総延長一万五千メートルに互り鋭意完成を目指して来ましたが、早期降雪等により多少おくれは出ましたが現在では子馬線を残し工事は完了しました。この間、皆様には色々とお迷惑をかけた事と思いますが、今後は木材搬出その他に十分御利用願いたいと思えます。

### 戦没者叙勲伝達式

去る四月二十日第四十回より第四十三回の和泉村内の戦没者叙勲の伝達式



(写真は、伝達式風景)

が役場で行なわれ、村長よりそれらの遺族に対し勲章の伝達をされました。今行なわれた村内の叙勲者数は左記の通りです。

- 第四十回 四名
- 第四十一回 二名
- 第四十二回 十名

## 下嶋甚作氏に勲七等瑞宝章



昭和四十三年春の叙勲が去る四月二十九日に発表され、通産省関係で和泉村上大納、元中龍鉱業所坑内支柱員下嶋甚作氏に勲七等瑞宝章が授与された。

(写真は下嶋甚作氏)

## 「たばこ」は村内で買いましよう

村の財政を維持するため最も重要なものに、村民の皆さんが直接、あるいは間接に納入される税金があります。税金には、普通税として村民税をはじめ固定資産税など七種類の外、国民健康保険等の目的税がありますが、今回は普通税の一つである「たばこ」消費税についてふれて見たいと思います。昭和四十二年中に、公社から和泉村に納入された「たばこ」消費税は、九百六拾七万九千六百六拾円となっており、消費本数は、一千七百六拾一万五千本で、四十三年三月現在の人口一人当り一ヶ年で五千二百拾七本、一日では、一四〇二本を消費しております。「たばこ」消費税は、大切な収入源の一つであります。本年度は電源開発一連の工事等完成し、これに伴う「たばこ」消費税等の減収は必至となり、苦しい台所となりそうです。



史的転換期を迎えたのである。▲山村再建の夜明けとでもいおうか。今ここにその第一歩が始まったのである。今後村民が進むべき青写真、すでに何度となく広報でも報道済みであるが、それを育てるためには何と云っても村民個々の協力が必要であり、それが当村の発展につながる大きな要素でもあるから為政者の賢明な指導を大いに期待したい。▲その中一つ、林業振興計画であるが本年度は林業構造改善事業の初年度でもあり大いに注目したい。当村の面積のうち九〇パーセント以上が山で占められている。だからその山を最大限に活用すること以外に発展の方法はないといってもよい。ところがその山を充分に活かすことのできない複雑な問題が案外多いのではないか。▲例えば共有山林がそれである。分割することもできないであろう共有山林では造林の可能性は無である。すでに当村内における永住をあらかじめ共有地の売却を主張するものと、分割してから個々に売却すればよいとする意見が対立したとするならば話は一向に進まないではないか。▲かような状態の中では生産性の向上などとうてい望めない。そればかりか経済価値の低い雑木ばかりが成長し、場合によっては土地が他人の手に渡り、離村者が増加したとするならばとうてい当村の発展には結びつかないであろう。少しも長く故郷に生きたいという素朴な人々が存在するとしたら、何等かの方法で解決すべきではなからうか。例えば分収造林というのも一方法であろう。▲山がありながら山を活かせないとは全く不本意であるに違いない。そこで林業構造改善事業に大きな期待を寄せているのである。

◎ 我がものと思え尊いこの一票 七月七日は参議院議員選挙

# 日産粗鉦千五百トンへ

## 鉦床と地質構造の関係を究明

和泉村議会の一行は、広域調査視察とともに、当村唯一の産業である中龍鉦山を見学した。

上大納地籍における地下資源の発見は、寛元年間に始まったといわれ、又天正年間には、大野藩主金森長近公が家臣糸屋宗兵衛を金山奉行として、その経営にあたらせたともいわれている。その後、鉦山開発を意図し、多くの人々が探鉦を行ったり、小規模による経営を試みた。

現在の中龍鉦業所は、昭和に入ってから当時の実業家、中村房次郎氏と、鉦業権者であった竜田哲太郎氏に三井鉦山が投資して発足した。戦後における経済界の変動による休山や、四十年九月水害など幾多の困難を克服し、坑内や選鉦場における新鋭諸機械の完備、設備の改善などがなされ、又探鉦についても、鉦床と地質構造の関係を、地表調査、試験調査などにより鉦量の増大につとめている。この日一行は、所長



(写真は、坑内見学の一行)

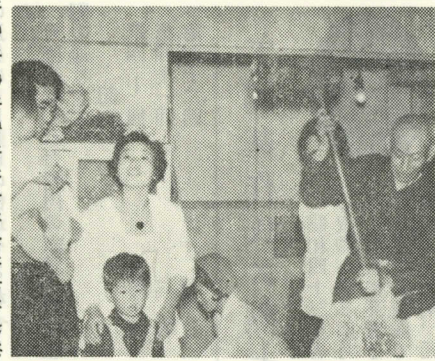
## 米寿のお祝い

義平の子孫として、三十六代目にあたる朝日啓太郎さん(八十八)は、明治十四年生れの米寿にあたり、このほどそのお祝いが親類を始め、近所の人や友人など六十人が集って行なわれた。

啓太郎さんは、かつて村議会議員や選挙管理委員会の委員長を勤めたこともあり、又、大相撲のファンとしても有名である。この住き日にちなみ、一同の見守る中で、モチのキネを取るなどまだまだ元気なところを見せている。

(写真は、元気にキネをふるう啓太郎さん)

## 朝日啓太郎さん



◎ あなたは今安全運転をしていますか

業現場や、最近取付けられたマイナス二百四十メートルからの選鉦場にいたる約一キロのベルトコンベアー装置などを見学した。現在の粗鉦日産、千四百トンから千五百トン台へと設備の改善がなされている。このあと前田選鉦課長のもとに、粗鉦受入から、浮選精鉦にいたる選鉦場など見てまわった。

# 和泉村観光協会便り

去る四月二六日、定期総会が開かれ型通り進行されたが、目立つ事項としては、本年度の事業計画に重点が置かれ、期せずして長野ダム周辺と朝日地区を中心に開発を進め遂次他におし進める方針がとられ、郷土民芸館、観光休憩所、下山白竜神の再現に意見が集中した。就中、大野・白鳥間の悪道路が観光のみならずあらゆる方面で当村発展の障害をなしていることが論議を呼び、即座に決議文を作製して早期改良舗装を関係機関に提出することにした。

(写真は、総会の模様)

## 村民の声

「春」「夏」「秋」「冬」色さまざまに変化する自然を求めて、年々観光客は増加の一線をたどりつつある。

当村においても、観光の開発による村造が今後の村政基本方針の一つにあげられている。和泉の観光は、かくあるべきかをみんなで考えて見たい。

観光の第一条件は、施設の充実による受入れ体制と、道路の整備ではなからうかと考える。昨年和泉村を訪れた観光客は、そうとうの数であったと聞いている。しかしこれら観光客が、ダム周辺で休むことすら出来ない現状である。

国道の全線舗装、鉄道の開通などによって、夏、冬をとわず、交通は確保され、その利用度も高くなって来ることは必至である。今は計画実行に入る段階でもあり、和泉の観光に熱意あるグループが、自己資本を投下し、又、村からの補助等によって、ダム周辺に施設を造る事である。村自体も、村造りの一つを観光で生かす方針であれば施設建設計画もあり、いち早く実行に移すべきではなからうか。

## 一郵便局だより

### あて名に郵便番号を



郵便番号のお知らせ

みなさんに郵便番号を書いていただくことによって

- ◇ 郵便が速く着きます。
- ◇ 郵便の速度が安定します。
- ◇ 郵便のコストを引下げられます。
- ◇ 迷子郵便が少なくなります。
- ◇ サービス低下を避けられます。

ので、来る7月1日からはあて名にお忘れなく郵便番号をお書き下さい。

先月号でお知らせしました 下穴馬局区内912-02、中龍鉦山局区内912-03の番号を、あて名に書いてお出しになる方がときどき見受けられますが、これは大変なまちがいでこのままお出しになりますと、郵便物は逆に戻ってきます。あて名に書いていただく番号は郵便番号簿でおしらせのうえご書きいただくもので、さきほどの番号はご自分の住所の上部に書いていただくものですから今後とくにご注意下さい。

### 記載例

